

「仁淀川の“緑と清流”を再生する会」設立17周年記念シンポジウム

荒瀬ダム撤去に学ぶ

— 自然再生と地域活性化 —

今年3月、国内で初めて熊本県の県営荒瀬ダム（長さ約210m、高さ約25m）が完全撤去されました。ダムがあった球磨川の流域では、戻りつつある清流を活用した地域おこしの動きが始まっています。今回、その中の一人である溝口隼平さんをお招きして、ダム撤去までの経過や撤去によって川がどのように変わったのか、どのような地域活性化の取り組みが始まっているのかをお話していただきます。仁淀川の自然再と地域活性化につながるヒントを学びたいと思います。



熊本県企業局 HP より

主催 仁淀川の“緑と清流”を再生する会

後援 仁淀川町、仁淀川漁業協同組合、仁淀川町商工会、仁淀川町観光協会

日時 11月3日（土）午後2時～5時

場所 仁淀川町池川コミュニティセンター4階ホール

問合せ 仁淀川の”緑と清流”を再生する会事務局（園山090-1576-3132）

・開会挨拶

○講演「荒瀬ダム撤去の前と後」・・・・・・・・・・・・・・・・（80分）

講師：溝口隼平氏（熊本県、ラフティング会社「Reborn」代表）

*質疑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（10分）

— 休憩 —・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（10分）

○パネルディスカッション「川の自然再生と地域活性化」（70分）

- ・溝口隼平氏（「Reborn」代表）
- ・松浦秀俊氏（再生する会顧問）
- ・吉村正男氏（仁淀川漁協組合長）
- ・橋本信之氏（再生する会副会長）
- *進行：竹本文直氏（再生する会）

・閉会挨拶

*会終了後、講師を囲んで懇親会を行います。参加を希望される方は、事務局まで連絡ください。（090-1576-3132）

溝口さんは全国のダム撤去運動をテーマにしていた東京大学大学院の研究者だった2010年、「ダム撤去による川の再生を見届けたい」と荒瀬ダム近くの空き家を夫婦で借り、河川環境がどう変化するかや住民の聞き取り調査などを続けている。「再生した川の流れを生かして経済的価値をつくりだし、地域の活性化につなげたい」と、ラフティング会社を設立し「Reborn」と名づけて営業している。シーズンオフの冬場は、主に植林の仕事をしている。（2018.3.28 付西日本新聞より）